

## 「大阪府の新たな男女共同参画プラン」に関するアンケート分析結果概要

- 実施期間 平成 26 年 12 月 19 日（金）から平成 26 年 12 月 21 日（日）
- 回答者数 2,000 名
- 調査方法 本アンケート調査は、若年男性層を調査対象とし、民間インターネット調査会社に委託して、府内在住の 20 代～40 代の男性、各年代約 600 サンプル、計 2,000 サンプルで調査を行った。

		（上段：回答者数 下段：横％）			
		20代	30代	40代	合計
男性		667	667	666	2,000
		33.4%	33.4%	33.3%	100.0%

### ■ 分析結果の概要

#### 1. 調査の目的

男女共同参画の推進には、女性だけでなく、男性にとっても男女共同参画が自分自身にかかわる重要な問題であるとの認識が深まるよう取組むことが重要である。

平成 26 年 7 月に「男女共同参画に関する府民意識調査」（5 年毎 郵送 層化 2 段無作為抽出 2000 サンプル）を実施したところ、20 代から 40 代男性の回答者が少ない等、今後の男女共同参画社会の担い手となるべき若年男性層の現状把握が困難であった。

そこで、男性にとっての男女共同参画を効果的に推進するための方策等を検討するため、20 代～40 代の若年男性層について、配偶者・パートナーとの仕事や家事（育児や介護等を含む。以下同じ。）の役割分担に関する意識調査を行う。

なお、本件調査結果は、平成 28 年度～32 年度を計画期間とする新たな男女共同参画プラン策定の基礎資料として活用する。

#### 2. 調査仮説

- (1) 家事をしない男性は、「男は仕事、女は家庭」という伝統的意識を持つ者が多い。
- (2) 男性が世帯内で「主な家計支持者」（主な家計の担い手）となるのは、女性の就労形態や経済的な理由とともに、男性、女性それぞれの意識のあり方によるところが大きい。
- (3) 独身期に家事の経験がある男性は、結婚後（事実婚を含む。以下同じ。）も家事を分担している割合は高い。
- (4) 家事をしない男性は、女性の意識改革や家事をするきっかけ、家事に対するモチベーションが保てるような支援を求めている。

#### 3. 結果要旨

##### (1) 仮説 1 検証

家事をしない男性は、「男は仕事、女は家庭」という伝統的意識を持つ者が多かった。

##### (2) 仮説 2 検証

男性が世帯の家計の担い手となるのは、女性の就労形態や経済的な理由によるところが大きかった。

(3) 仮説3 検証

独身期に家事の経験がある男性は、結婚後も家事を分担している割合が高かった。

(4) 仮説4 検証

家事をしない男性は、家事をすることについての配偶者・パートナーの思いやりや励ましを求めている。

4. その他検証

(1) 家事をしない男性が家事をしない理由

配偶者・パートナーが自発的にやってくれるからとの回答割合が最も高かった。

(2) 家事をする男性が家事をする理由やきっかけ

配偶者・パートナーに対する思いやりとの回答割合が最も高かった。

(3) 家事をする男性の家事能力習得方法

子供のころからの習慣と自分自身の創意工夫の回答割合がほぼ同様の水準で最も高かった。

(4) 社会情勢の変化に対する関心と家事実践

家事をする男性の方が、家事をしない男性より、人口減少等の今後の社会情勢の変化に関する新聞・ニュースをよく見ており、今後に不安を感じている割合が高かった。

(5) 家事分担に対する満足度

家事をしていない男性の方が、家事をする男性より、自分は満足しているが配偶者の満足度は低いだろうと考えていることがうかがわれた。

(6) 男性が家事に参加するために必要な条件

結婚している男性では、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」の回答割合が最も高く、結婚していない男性では「男性の意識改革」が最も高かった。

(注)

1. 図表中割合を百分率で表示する場合は、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
2. 図表中「SA」はシングルアンサー（単一回答）、「MA」はマルチアンサー（複数回答）を表す。
3. << >>は、2つ以上の選択肢を合わせて記述する場合に用いた。
4. 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差をとり、「・・・ポイントの差」と表記した。
5. 図表中の選択肢は、回答率の高い順等に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
6. 統計的検定を行った場合は、用いた手法とともにその旨を「注」に記載した。

## 1. 家事実践と「男は仕事、女は家庭」という伝統的意識との関係（仮説1検証）

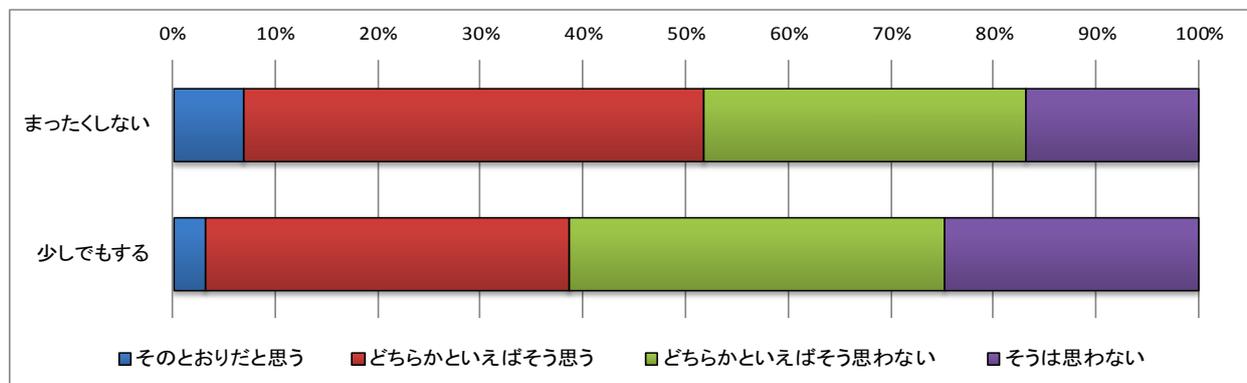
仮説1を検証する。平素の家事実践の有無についての質問に対し、「まったくしない」と答えた回答者（まったくしない層）と「少しでもする」と答えた回答者（少しでもする層）で、「男は仕事、女は家庭」という考え方を「そう思う」割合に差があるかみた（注1）。

まったくしない層の「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》の割合は51.6%、少しでもする層の《そう思う》割合は約38.6%で、まったくしない層の《そう思う》割合の方が高く、統計的に有意な差があった（注2）。

（注1） Q22（平日の家事の実践）、Q24（休日の家事の実践）とも「まったくしない」と答えた回答者を「まったくしない」、どちらか一方でも「（少しでも）する」と答えた回答者を「少しでもする」に区分した。

（注2） 有意水準5%でカイ2乗検定を行った。

		Q12「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。						計
		そう思う			そう思わない			
		そのとおり だと思う	どちらかとい えばそう思 う	小計	どちらかとい えばそう思 わない	そうは思わ ない	小計	
Q22 Q24)あなたは家 事をしていますか。	まったくしない	27 6.8%	178 44.8%	205 51.6%	125 31.5%	67 16.9%	192 48.4%	397 100.0%
	少しでもする	49 3.1%	570 35.6%	619 38.6%	585 36.5%	399 24.9%	984 61.4%	1,603 100.0%
	計	76 3.8%	748 37.4%	824 41.2%	710 35.5%	466 23.3%	1,176 58.8%	2,000 100.0%
	p 値=0.00000							



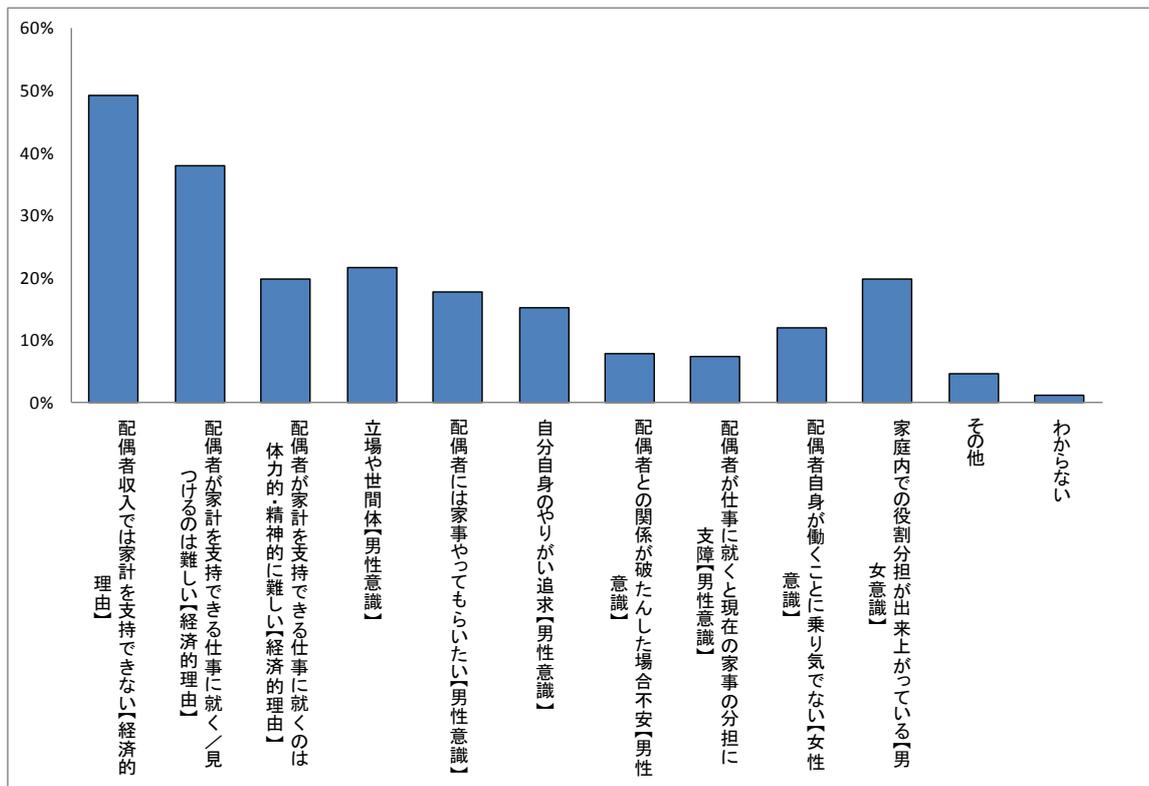
## 2. 男性が家計の担い手となる理由（仮説2 検証）

仮説2を検証する。結婚しており、Q16で「ほぼ自分」が家計の担い手であると回答し、かつ、Q17で「家計の担い手をあなたから配偶者・パートナーに交替できると思うか」と質問に対し「できないと思う」と答えた回答者にその理由を質問した。理由については、下表のとおり、12の選択肢を「経済的理由」、「男性の意識」、「女性の意識」、「男性・女性の意識」、「わからない」、「その他」に区分した。

最も割合が高かったのは「配偶者・パートナーの収入では家計を支持できない」【経済的理由】(49.3%)で、「配偶者・パートナーが家計を支持するだけの仕事（総合職、管理職、専門職、正規社員等）に就く／見つけるのは難しい」【経済的理由】(38.0%)、「家族内での立場や世間体を考えると、男の自分が家計を支持すべき」【男性の意識】(21.7%)が続いている。

全体的にみた場合、「経済的理由」の割合が高く、高いもので5割程度、「男性の意識」と「男性・女性の意識」で2割程度、「女性の意識」が1割程度で、男性が世帯内で家計の担い手となる理由としては、男性、女性それぞれの意識のあり方の割合は小さいとはいえないが、経済的理由が主な理由であると考えられる。

	回答者数	経済的理由			男性の意識				女性の意識	男性・女性の意識	わからない	その他	
		配偶者の収入では家計を支持できない	配偶者が家計を支持するだけの仕事に就く／見つけるのは難しい	配偶者が家計を支持するだけの仕事に就くのは体力的・精神的に難しい	家族内での立場や世間体	配偶者には家事やってもらいたい	自分自身がやりがいを追求したい	配偶者との関係が破たんした場合、自分が家計支持者でなくなるのは不安	配偶者が家計を支持するだけの仕事に就くと現在の家事の分担に支障	配偶者自身が働くことに乗り気でない	既に家庭内での役割分担が出来上がっている	わからない	その他
Q18) 前問で、世帯の家計支持者(家計の担い手)を今後あなたから配偶者・パートナーに交替することは「できないと思う」を選んだ方にお伺いします。あなたができないと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA)	434	214	165	86	94	77	66	34	32	52	86	20	5
		49.3%	38.0%	19.8%	21.7%	17.7%	15.2%	7.8%	7.4%	12.0%	19.8%	4.6%	1.2%



### 3. 独身期の家事経験と結婚後の家事実践（仮説3 検証）

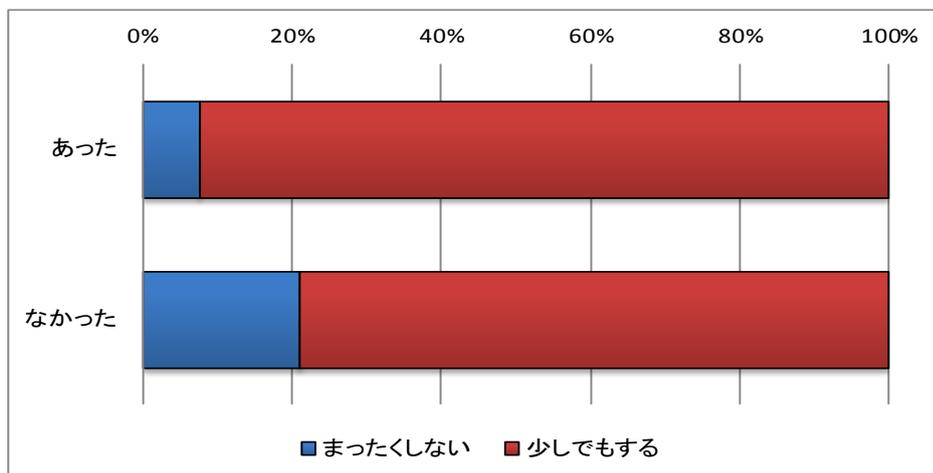
仮説3を検証する。結婚している回答者を対象に、結婚前に自分で家事をしていた時期があったかを質問し、「あった」と答えた回答者（経験あり層）と「なかった」と答えた回答者（経験なし層）で、平素の家事実践の有無に差があるかみた（注1）。

経験あり層の「まったくしない」割合は7.4%、「少しでもする」割合は92.6%、経験なし層の「まったくしない」割合は21.0%、「少しでもする」割合は79.0%で、経験あり層の家事実践割合の方が高く、統計的に有意な差があった（注2）。

（注1）仮説1の検証におけると同様に、Q22（平日の家事の実践）、Q24（休日の家事の実践）とも「まったくしない」と答えた回答者を「まったくしない」、どちらか一方でも「(少しでも)する」と答えた回答者を「少しでもする」に区分した。

（注2）有意水準5%でカイ2乗検定を行った。

		Q22 Q24)あなたは家事をしていますか。(SA)		
		まったくしない	少しでもする	計
Q21)あなたは、結婚前に、自分で家事をしていた時期がありましたか。(SA)	あった	30 7.4%	374 92.6%	404 100.0%
	なかった	98 21.0%	369 79.0%	467 100.0%
	計	128 14.7%	743 85.3%	871 100.0%
				p 値=0.00000



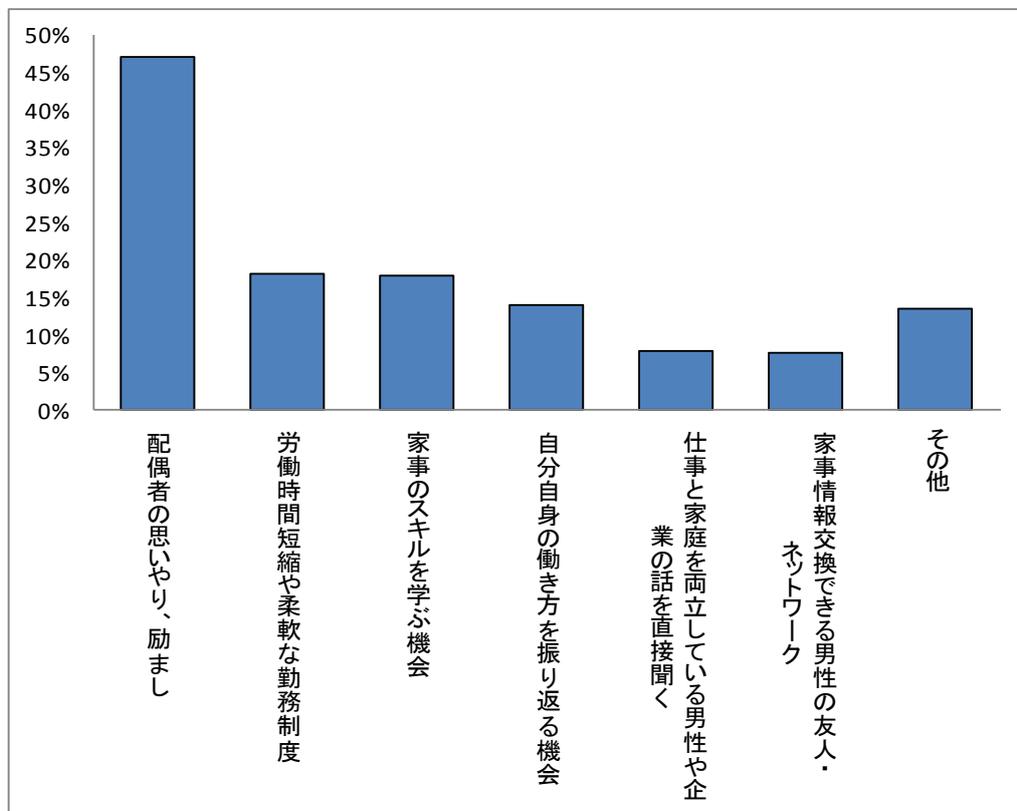
#### 4. 家事をしない男性が求める支援（仮説4 検証）

仮説4を検証する。平日、休日とも家事を「まったくしない」か、家事に従事する時間が「30分未満」と答えた回答者に、どのようなきっかけや支援があれば家事をするようになるか質問した。

「家事をすることについての配偶者・パートナーの思いやり、励まし」(47.1%)の割合が最も高く、「職場が仕事と生活の両立を推進し、労働時間の短縮や柔軟な勤務制度（フレックスタイムや在宅勤務等）の導入等を進めること」(18.2%)、「家事のスキルを学ぶ機会（家事、育児、介護等の体験・実習する講座等）」(18.0%)がほぼ同じ割合で続いているが、配偶者・パートナーの思いやりや励ましを求める割合は他の選択肢を約30ポイント以上、上回っている。

「実際に仕事と家庭を両立している男性や企業の話を通じて直接聞くこと」(8.0%)、「家事に関して気軽に情報交換や相談できる男性の友人やネットワーク」(7.6%)といった人的ネットワーク型の支援については割合が10%を切っておりニーズが高いとはいえなかった。

	回答者数	家事をすることについての配偶者・パートナーの思いやり、励まし	職場が仕事と生活の両立を推進し、労働時間の短縮や柔軟な勤務制度（フレックスタイムや在宅勤務等）の導入等を進めること	家事のスキルを学ぶ機会（家事、育児、介護等の体験・実習する講座等）	自分自身の働き方を振り返り、今後のライフプランと家事、育児、介護等との関わりを考える機会	実際に仕事と家庭を両立している男性や企業の話を通じて直接聞くこと	家事に関して気軽に情報交換や相談できる男性の友人やネットワーク	その他
Q28) 平日、休日とも家事を「まったくしない」か、家事に従事する時間が「30分未満」とお答えになった方におうかがいします。あなたは、どのようなきっかけや支援があれば、家事をするようになると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。(MA)	749	353	136	135	105	60	57	101
		47.1%	18.2%	18.0%	14.0%	8.0%	7.6%	13.5%



## 5. その他検証

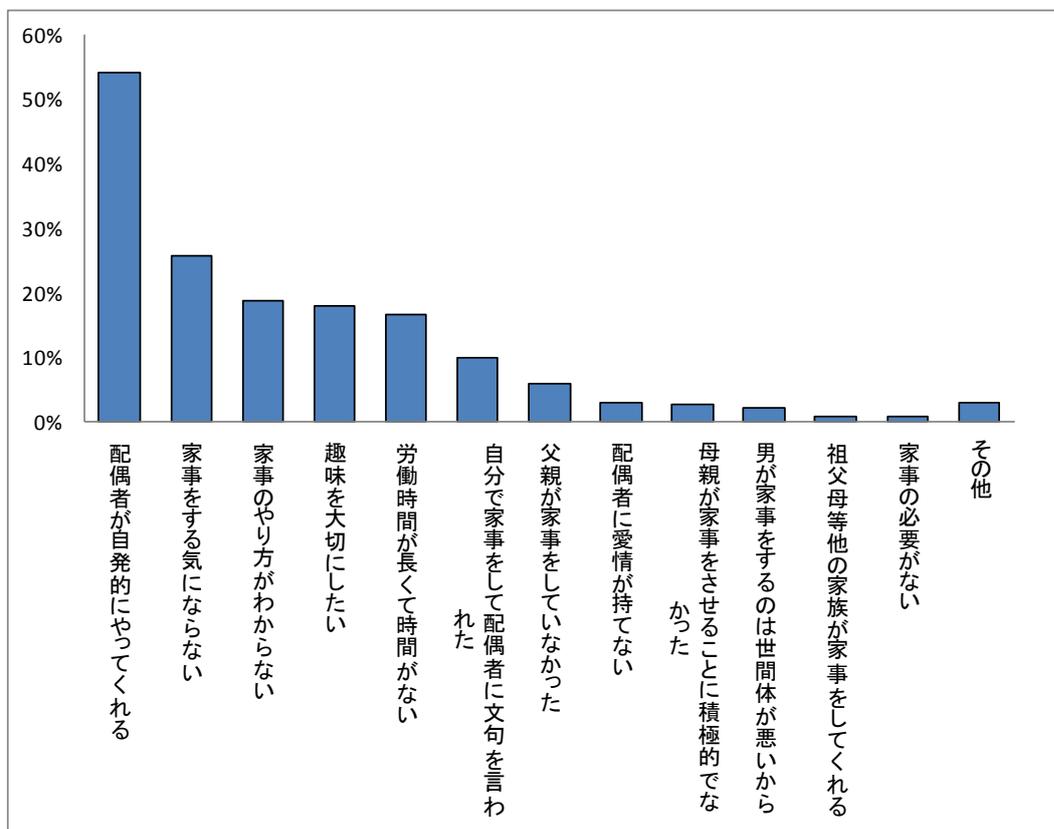
### (1) 家事をしない男性が家事をしない理由

結婚しており、かつ、平日、休日とも家事を「まったくしない」か、家事に従事する時間が「30分未満」と答えた回答者の家事をしない理由についてみた。

「配偶者・パートナーが自発的にやってくれるから」(54.3%)の割合が最も高く、「家事をする気にならないから／面倒だから」(25.6%)が続き、さらに「家事のやり方がわからないから」(18.8%)、「趣味や自分の個人的な楽しみ方を大切にしたいから」(17.9%)、「労働時間が長くて時間がないから」(16.7%)

(16.7%)がほぼ同じ割合で続いているが、配偶者・パートナーが自発的にやってくれるとする回答割合は他の選択肢を約30ポイント以上、上回っていた。

	回答者数	配偶者・パートナーが自発的にやってくれるから	家事をする気にならないから／面倒だから	家事のやり方がわからないから	趣味や自分の個人的な楽しみ方を大切にしたいから	労働時間が長くて時間がないから	自分で家事をして、配偶者・パートナーや家族に文句を言われた(言われる)から	自身が父親が家事をしていなかったから	配偶者・パートナーに愛情や思いやりが持てず家事を分担する気になれないから	自身の母親が家事をさせることに積極的でなかったから	男が家事をするのは世間体が悪いから	祖父母や親兄弟姉妹等、他の家族が家事をしてくれるから	家事の必要がないから(有料サービス(飲食店、コンビニエンスストア、クリーニング、ハウスクリーニング、ベビーシッター、老人ホーム等の施設、介護ヘルパー等)の利用等)	その他
Q26) 平日、休日とも家事を「まったくしない」か、家事に従事する時間が「30分未満」とお答えになった方におうかがいします。あなたが、家事(育児や介護等を含む)を(ほとんど)しない理由は何ですか。(MA)	234	127	60	44	42	39	23	14	7	6	5	2	2	7
		54.3%	25.6%	18.8%	17.9%	16.7%	9.8%	6.0%	3.0%	2.6%	2.1%	0.9%	0.9%	3.0%

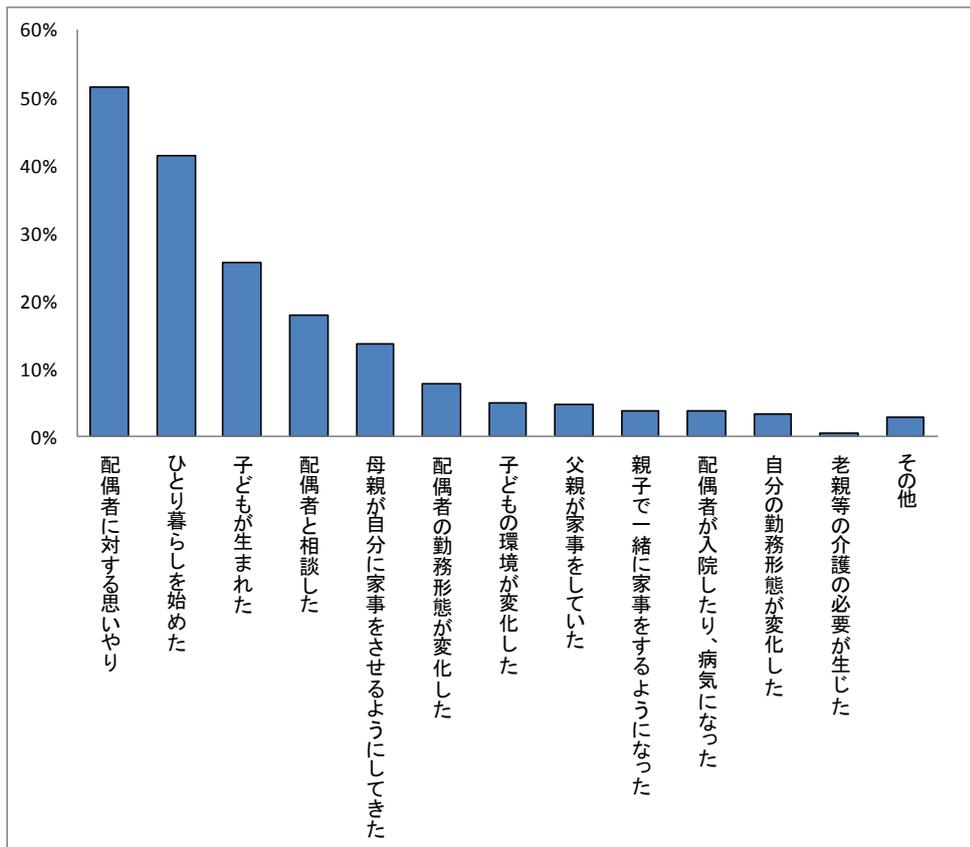


(2) 家事をする男性が家事をする理由やきっかけ

結婚しており、かつ、平日もしくは休日（またはその両方）に30分以上家事をすると答えた回答者の家事をするようになった理由やきっかけについてみた。

「配偶者・パートナーに対する思いやり（自分が家事を分担することにより、配偶者・パートナーが仕事をしやすくする等）」(51.6%)の割合が最も高く、「ひとり暮らしを始めた」(41.4%)、「子どもが生まれた（乳幼児期子育てが開始した）」(25.7%)が続いている。

	回答者数	配偶者・パートナーに対する思いやり(自分が家事を分担することにより、配偶者・パートナーが仕事をしやすくする等)	ひとり暮らしを始めた	子どもが生まれた(乳幼児期子育てが開始した)	配偶者・パートナーと相談して家事の分担について決めた	自身の母親が自分に(親子コミュニケーションや教育、しつけ等のため)家事をさせようにしてきた	配偶者・パートナーの勤務形態が変化した(就職、転職、退職等)	子どもの環境が変化した(保育所や幼稚園に通い始めた、小中高校に進学した、クラブ活動を始めた、高校を卒業した等)	自身の父親が家事をしている(いる)	親子のコミュニケーションや教育のため親子で一緒に家事をするようになった	配偶者・パートナーが入院したり、病気になるようになった	自分の勤務形態が変化した(就職、異動、転職、退職等)	老親等の介護の必要が生じた	その他
Q30) 平日もしくは休日(またはその両方)に30分以上家事をするとお答えになった方におうかがいします。あなたが、家事(育児や介護等を含む)をするようになった理由やきっかけは何でしたか。(MA)	580	299	240	149	104	79	46	29	27	22	22	19	3	17
		51.6%	41.4%	25.7%	17.9%	13.6%	7.9%	5.0%	4.7%	3.8%	3.8%	3.3%	0.5%	2.9%

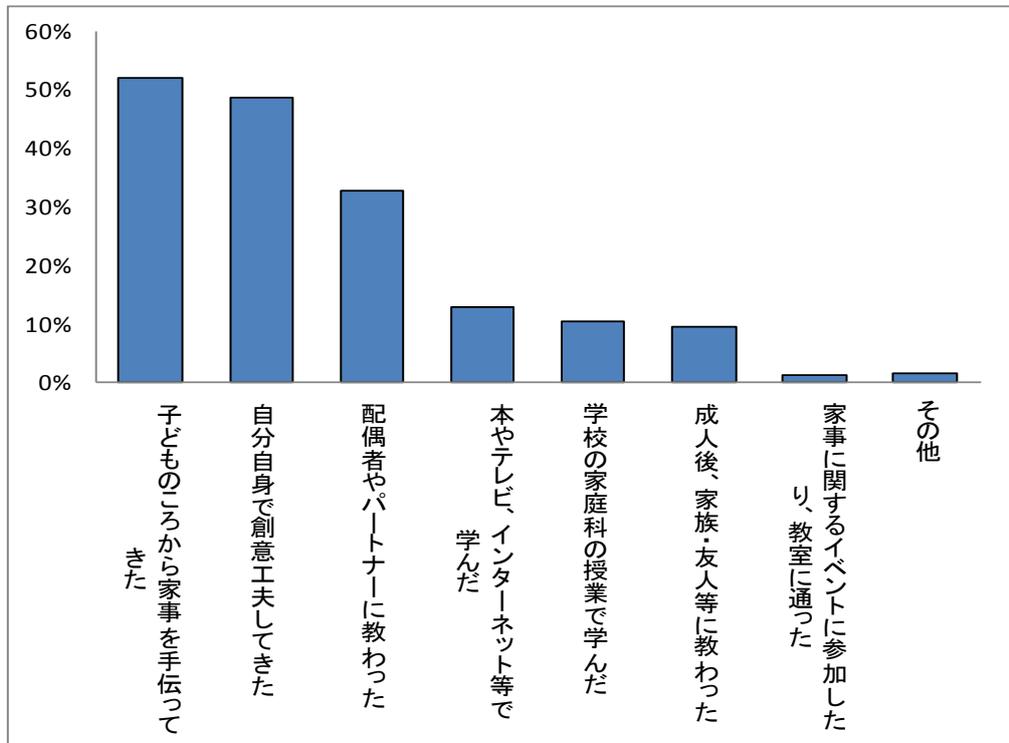


### (3) 家事をする男性の家事能力習得方法

結婚しており、かつ、平日もしくは休日（またはその両方）に30分以上家事をすると答えた回答者がどのようにして家事のやり方を学んだかについてみた。

「子どものころから家事を手伝ってきた／教わってきた／しつけられてきた」（52.2%）と「自分自身で創意工夫してきた」（48.6%）がほぼ同じ割合で最も高く、「配偶者やパートナーに教わった」（32.8%）が続いている。子どもの頃からの習慣、自身の創意工夫、結婚後の配偶者・パートナーとのコミュニケーションのウェイトが高いことがうかがわれ、これらの回答と「本やテレビ、インターネット等で学んだ」（13.1%）、「学校の家庭科の授業で学んだ」（10.5%）、「成人後、家族・友人等に教わった」（9.5%）、「家事に関するイベントに参加したり、教室に通った」（1.2%）との間には約20ポイント以上の差があった。

	回答者数	子どものころから家事を手伝ってきた／教わってきた／しつけられてきた	自分自身で創意工夫してきた	配偶者やパートナーに教わった	本やテレビ、インターネット等で学んだ	学校の家庭科の授業で学んだ	成人後、家族・友人等に教わった	家事に関するイベントに参加したり、教室に通った	その他
Q29) 平日もしくは休日(またはその両方)に30分以上家事をするとお答えになった方におうかがいします。あなたはどのようにして家事(育児や介護等を含む)のやり方を学びましたか。(MA)	580	303	282	190	76	61	55	7	9
		52.2%	48.6%	32.8%	13.1%	10.5%	9.5%	1.2%	1.6%



(4) 社会情勢の変化に対する関心と家事实践

① 新聞読読と家事实践

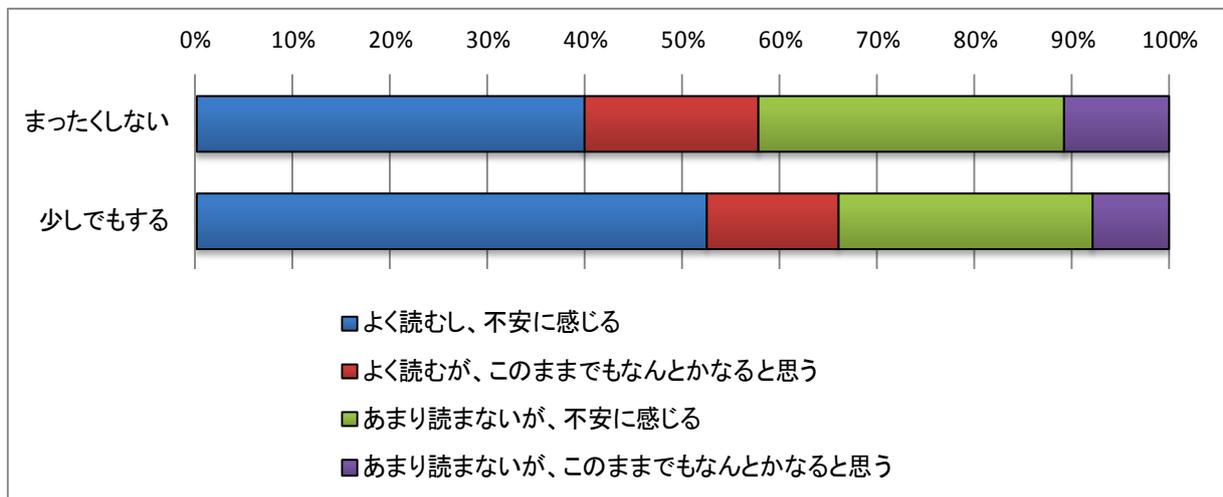
平日、休日とも家事を「まったくしない」と答えた回答者（まったくしない層）と「(少しでも)する」と答えた回答者（少しでもする層）で、人口減少等の今後の日本社会の情勢の変化に関する新聞記事やニュース等についてどの程度読んだり見たりしているかについて差があるか比較した。

まったくしない層の「よく読む(見る)し、不安を感じる」と「よく読む(見る)が、このままでもなんとかなると思う」を合わせた《よく読む(見る)》の割合は57.8%、少しでもする層の《よく読む(見る)》割合は66.0%で、まったくしない層の割合の方が低く、統計的に有意な差があった(注)。

(注) 有意水準5%でカイ2乗検定を行った。

		Q15 あなたは、人口減少、少子高齢化、労働力不足、社会保障問題等、今後の日本社会の情勢の変化に関する新聞記事やニュース等についてどの程度読んだり見たりしていますか。また、どのように感じていますか。あなたの状況や考えに最も近いものをお選びください。(SA)						計
		よく読む(見る)			あまり読まない(見ない)			
		よく読む(見る)し、不安を感じる	よく読む(見る)が、このままでもなんとかなると思う	小計	あまり読まない(見ない)が、不安を感じる	あまり読まない(見ない)が、このままでもなんとかなると思う	小計	
Q22 Q24)あなたは家事をしていますか。	まったくしない	157	70	227	123	43	166	393
		39.9%	17.8%	57.8%	31.3%	10.9%	42.2%	100.0%
	少しでもする	831	217	1,048	414	125	539	1,587
		52.4%	13.7%	66.0%	26.1%	7.9%	34.0%	100.0%
	計	988	287	1,275	537	168	705	1,980
		49.9%	14.5%	64.4%	27.1%	8.5%	35.6%	100.0%
								p 値=0.00216

(注)「その他」を除いて集計



② 社会情勢の変化に対する不安と家事実践

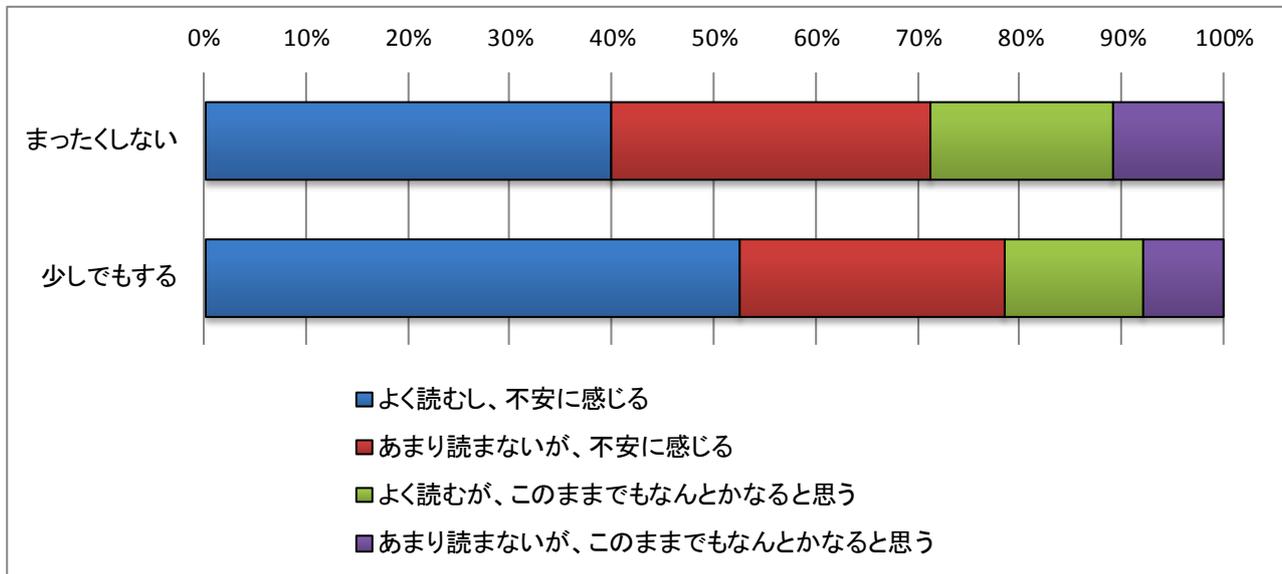
平日、休日とも家事を「まったくしない」と答えた回答者（まったくしない層）と「(少しでも)する」と答えた回答者（少しでもする層）で、人口減少等の今後の日本社会の情勢の変化に関する新聞記事やニュース等についてどのように感じているか、その不安感について差があるか比較した。

まったくしない層の「よく読む(見る)し、不安に感じる」と「あまり読まないが(見ない)が、不安に感じる」を合わせた《不安》の割合は71.2%、少しでもする層の《不安》割合は78.4%で、少しでもする層の割合の方が高く、統計的に有意な差があった(注)。

(注) 有意水準 5%でカイ 2 乗検定を行った。

		Q15 あなたは、人口減少、少子高齢化、労働力不足、社会保障問題等、今後の日本社会の情勢の変化に関する新聞記事やニュース等についてどの程度読んだり見たりしていますか。また、どのように感じていますか。あなたの状況や考えに最も近いものをお選びください。(SA)							
		不安			このままでもなんとかなる			計	
		よく読む(見る)し、不安に感じる	あまり読まない(見ない)が、不安に感じる	小計	よく読む(見る)が、このままでもなんとかなると思う	あまり読まない(見ない)が、このままでもなんとかなると思う	小計		
Q22 Q24)あなたは家事をしていますか。	まったくしない	157	123	280	70	43	113	393	
		39.9%	31.3%	71.2%	17.8%	10.9%	28.8%	100.0%	
	少しでもする	831	414	1,245	217	125	342	1,587	
		52.4%	26.1%	78.4%	13.7%	7.9%	21.6%	100.0%	
計		988	537	1,525	287	168	455	1,980	
		49.9%	27.1%	77.0%	14.5%	8.5%	23.0%	100.0%	
								p 値=0.004347	

(注)「その他」を除いて集計



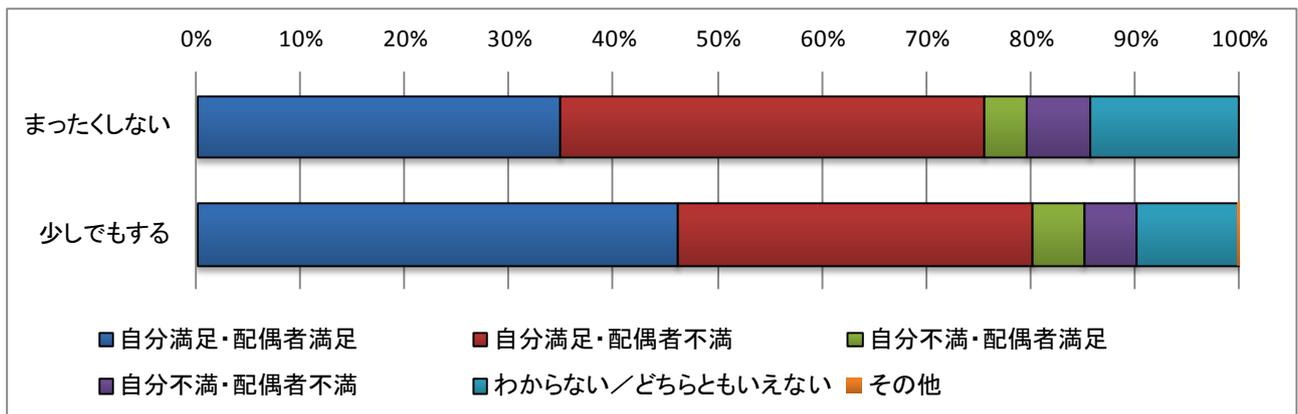
(5) 家事分担に対する満足度

結婚しており、かつ、平日、休日とも家事を「まったくしない」と答えた回答者（まったくしない層）と「（少しでも）する」と答えた回答者（少しでもする層）で、配偶者・パートナーとの家事分担についての満足度について差があるか比較した。

「自分は満足しており、配偶者・パートナーも満足していると思う」割合について、まったくしない層（34.7%）より、少しでもする層（46.1%）の方が約11ポイント高い。「自分は満足しているが、配偶者・パートナーは不満を感じていると思う」割合について、少しでもする層（34.1%）より、まったくしない層（40.7%）の方が約7ポイント高い。「自分は不満だが、配偶者・パートナーは満足していると思う」、「自分は不満であり、配偶者・パートナーも不満を感じていると思う」はそれぞれ、5%程度であり割合は僅少であった。

以上をまとめると、家事をしない男性は、家事をする男性に比べ、自分は満足しているが、配偶者・パートナーが満足していると思う割合が低い、あるいは、配偶者・パートナーが不満を感じていると思う割合が高い傾向があることがうかがわれる。

		Q31 あなたは、配偶者・パートナーとの家事の分担についてどのように感じていますか。ひとつお選びください。(SA)						計
		自分は満足しており、配偶者・パートナーも満足していると思う	自分は満足しているが、配偶者・パートナーは不満を感じていると思う	自分は不満だが、配偶者・パートナーは満足していると思う	自分は不満であり、配偶者・パートナーも不満を感じていると思う	わからない／どちらともいえない	その他	
Q22 Q24) あなたは家事をしていますか。	まったくしない	41 34.7%	48 40.7%	5 4.2%	7 5.9%	17 14.4%	0 0.0%	118 100.0%
	少しでもする	321 46.1%	237 34.1%	34 4.9%	35 5.0%	68 9.8%	1 0.1%	696 100.0%
	計	362 44.5%	285 35.0%	39 4.8%	42 5.2%	85 10.4%	1 0.1%	814 100.0%



(6) 男性が家事に参加するために必要な条件

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、自身の経験を踏まえてどのようなことが必要だと思えるか、結婚している回答者と結婚していない回答者を比較した。

結婚している回答者において、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担を十分に話し合うこと」(33.4%)の割合が最も高く、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持つようにすること」(29.2%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(27.6%)が続いている。

結婚していない回答者において、「男性の意識改革」(31.0%)の割合が最も高く、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持つようにすること」(26.6%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(26.5%)が同様の水準で続いている。

結婚している回答者、結婚していない回答者とも、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること」、「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」の割合は10%を下回っており、人的ネットワーク型の支援に対するニーズは高くないことがうかがわれる。

		回答者数	Q32) 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの経験を踏まえて3つまでお答えください。(MA)										
			夫婦、パートナーの間で家事などの分担を十分に話し合うこと	男性の意識改革	労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持つようにすること	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること	女性の意識改革	小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要ない	その他
Q2) あなたは結婚していますか。(SA)	結婚している	814	272 33.4%	203 24.9%	238 29.2%	225 27.6%	196 24.1%	104 12.8%	139 17.1%	47 5.8%	30 3.7%	92 11.3%	22 2.7%
	結婚していない	1,186	316 26.6%	368 31.0%	315 26.6%	314 26.5%	275 23.2%	208 17.5%	169 14.2%	81 6.8%	55 4.6%	212 17.9%	32 2.7%
	計	2,000	588 29.4%	571 28.6%	553 27.7%	539 27.0%	471 23.6%	312 15.6%	308 15.4%	128 6.4%	85 4.3%	304 15.2%	54 2.7%

